

神戸新聞情報文化懇話会 I & C

○組み合わせの妙

No. 302 2011. 10 月号：エンジョイ・ヘルス

組み合わせの妙

桂枝湯けいしとうという漢方薬があります。ニッキ、芍薬しやくやくの根、棗なつめの実、生姜、甘い薬草かんぞうの甘草の五つの生薬を煎じて作ります。あまり有名ではありませんが、漢方の基本薬で、体力の弱い方のための風邪薬です。これに葛くずの根とちょっと刺激のある麻黄かつこんとうを加えたのが有名な葛根湯です。

ここから組み合わせの話です。桂枝加芍薬湯けいしかしやくやくとうは成分は桂枝湯と全く同じなのですが、芍薬がほんの少し多いだけです。これで、風邪の薬からおなかの薬に大変身です。しぶり腹、電車に乗るとすぐにおなかがグルグルしてしまう人なんかにとってもよく効きます。漢方薬の不思議なところ、漢方の妙です。会社のスタッフで、いつものメンバーの一人が思わぬ頑張りをする、あらぬ方向に、それもよい方向に物事が進んでいくようなことはないでしょうか。ありませんよね。

小建中湯しょうけんちゆうとうは子供さんの体質改善によろしいです。おねしょも治ったりします。これは桂枝湯に飴、それも米から作ったおいしい飴を足しただけです。上品な味がしておいしいです。これだけで風邪薬がまたまた変身です。それほど能力があると思わなかった、ほんなりとした人がチームに加わっただけで、そのチームが大活躍することはないですか。

漢方はいくつかの生薬が集まってできています。そして、その成分が少ないほど切れ味がよろしいです。芍薬甘草湯しやくやくかんぞうとうはこむら返りに効くので有名ですが、芍薬の根と甘い薬草の甘草だけでできています。足がつったときにすぐ効きますし、朝方に布団の中で足がつるときは寝る前に飲むと翌日から効きます。緊急時に大事なことを決めるのにたくさんの人が集まって、ああでもない、こうでもない、と決めるより、少数精鋭でぱっと決める方がずっとよろしいですね。

それに比べて、^{ほちゆうえつきとう}補中益気湯は10種類のたくさんの生薬からできています。

じんわりと効きます。仕事で疲れきったとき、夏ばてでも、大病の後、がんの時にも免疫力を高めます。腰を据えてじっくりと取り組むときに、たくさんの知恵があった方がよいかもかもしれません。時と場合によって問題を解決するメンバーの選び方が変わってきます。

^{だいおうかんぞうとう}大黄甘草湯というのは大黄と甘草からできていて、よく効く下剤です。頑固な便秘によろしいです。ふつうの下剤はたくさん飲むと、下るのですが、おなかがキューとなってつらくなってしまいます。大黄甘草湯は、よく効きますけれども、おなかは痛くなりません。大黄は下す作用が強く、非常に攻撃的な薬で將軍の別名があります。甘草は大黄の強さをコントロールする守備の薬で国家老とも呼ばれています。大黄の強い作用を甘草がつつみこみます。將軍と国家老の絶妙の組み合わせです。大黄甘草湯は会社の経営でも理想です。そして今の日本に一番必要なのは大黄甘草湯です。時計の針が3月11日前に戻らないのなら、大黄甘草湯が総理と官房長官になってくれたならなあと思うのは私だけでしょうか。

組み合わせの妙、漢方から教えてもらうことが、いっぱいあります。